



わたしも農に参加できるんだ！

食の安全が叫ばれる昨今、3歳の娘を抱える我が家も、安心安全な食生活がしたいと自給自足的な生活に興味を持ってはありました。だがしかし、「米」となると話は別。消費者として選択するしかない決めていたのです。

ところが「NPO ホタル野」による講演会「生き物いっぱいの稲作」(昨年12月13日、生涯学習センター)は、農薬や除草剤、化学肥料を使わなくとも、米が作れるという内容。話半分の気分が出かけた私でしたが、高校生実践報告を聞いても「本当に素人でも稲作ができるんだ。高校生にできるなら、私もやってみたい！」と一大奮起した訳なのです。

当日、参加希望リストに名を登録した90名中34名が女性。農業関係の講演会に、女性の参加者がこれだけ反応するのは異例だそうです。女性の参加者からは「実際に米作り、野菜作りの手伝いがしたい」「機械が無くても、手作業で何とかできるくらいの面積の田があれば紹介して欲しい」と実践に積極的な声が多く聞かれました。

環境NPOによる米作りへの誘いは、「農業＝農家」という高い参入障壁を崩し、誰でもが農に参加できる間口を広げる可能性を提示しました。長い間「消費者」として発言するか、「農家の嫁」として黙って役割を担うかしかなかった女性が、自分自身が「行動する生産者」になろうとする時期が来ているのです。また、農への参入が容易になったのは女性に限ったことではありません。会社勤めをしながら、或いはリタイア後に、農業に携わりたいと願う男性にも朗報と言えるでしょう。

(青木)

『結』インフォメーション

もし！大切な家族、大切な友人が『がん』になったら……

流山市は昨年、全国4地域で

始まった「緩和ケア普及のための地域

プロジェクト」という研究事業のモデル地区

に選ばれました。国立がんセンター東病院(柏市)

を中心とした周辺の医療・行政機関が参加しています。

そのプロジェクトの一環として、地域の人たちが気軽に相談でき、治療や生活に役立つ情報を提供する「がん患者・家族総合支援センター」作られました。「もし、大切な家族、大切な友人ががんになったらどうしたらいいのだろう？なんとかして助けたい、支えたい、話を聞いてあげたい、一緒にいてあげたい。」そうしたがんの病のあらゆる時期につらさを和らげるケアができたり、相談できることが大切でしょう。

がんになっても安心して暮らせるまちづくり、

が今始まっています。(滝島)

「がん患者・家族総合支援センター」
柏市若柴2番地4中央141街区1
(つくばエクスプレス)柏の葉キャンパス駅
から徒歩5分
Tel 04-7137-0800
Fax 04-7137-0801 平日10時から4時まで



いま流山のすてきな人

紙田 和代さん

流山市民活動推進センターで、いつもにこやかに対応してくれるセンター長の紙田さんにお話をうかがいました。



20年位前から都市計画のコンサルタントとしていろいろな街の地元の方たちと街づくりの活動をしていました。4年前、市内の市民活動支援組織「まちネット流山」の設立に関わり、自分たちの団体のことはもちろんきちんやりながら、流山のNPOが活躍するためにどのようなバックアップができるのかなど真剣に議論をしているのを目の当たりにし、流山は進んでいるな～と感じました。会社での会議などとは全然違い面白かったです。

メンバーの片岡さんから市民活動推進センターを受託するにあたり、センター長にならないかとお誘いを受け、皆さんと一緒に活動できるならと引受けました。2008年4月からセンター長となり、お会いする市民の皆さんの地域活動に対する思いとレベルの高さに驚いています。現在114団体の登録があり多くの方が活動しています。

役員として見られるのは男性が多いような気がします。子育て、食の安全、自然環境など将来にわたって、社会的問題意識は一般的に女性の方が高いのではないのでしょうか。ぜひ、老若男女の市民の方々に協働まちづくりに参加・参画して頂きたい。センターは会議などの場所の提供だけでなく、活動の拠点としてますます各団体の活動の活性化につながるよう、内容や運営にも適切な助言をしていきたいですね。

～編集に携わって～

『結』(ゆい)とは…

昔、農村の人々は手を貸し合うことを『結』と呼んだそうです。また、『結』は友だちや友愛を意味する言葉だと知りました。これからも私たちのまち・流山で女性や男性はもちろんですが、年代を超えたもっと色々な『結』が生まれ、つながっていきけるといいですね。

「結(ゆい)ながれやま」は2008年度男女共同参画情報紙編集講座「今日からわたしは編集者&ライター」を受講した私たちが命名し、編集しました。

青木八重子：花粉症の季節。今年のくしゃみは「Action!」。何か行動してみたい、そんな春です。

遠藤敏弘：若いママたちと作業して、今後地域づくりの核として活躍される意欲を感じ、心強く思いました。

勝平美穂：3歳の息子が幼稚園に行っている間に編集会議に参加しました。世界が広がりました

相楽恵美：地域のために頑張る人の姿に流山の良さを発見！作り手になって知る「製作者の苦労」良い学びが出来ました。

滝島由紀：1歳の子を初めて保育に預け参加しました。地域や人を愛する皆さんと出会って幸せです。

田中由実：「地域づくり」というテーマで世代を超えて語り合えた貴重な時間となり、いい刺激をうけました。

田畑裕秋：最大層の60代。いろいろなグループとの出会いを心掛けていましたが、期せずして30代に遭遇>(*^_^*)。

発行：流山市企画財政部企画政策課男女共同参画室
〒270-0192 流山市平和台1-1-1
Tel 04-7159-6064 Fax 04-7150-0111
E-mail: danjokyoudou@ci ty.nagareyama.chiba.jp
<http://www.ci ty.nagareyama.chiba.jp/>

結ながれやま

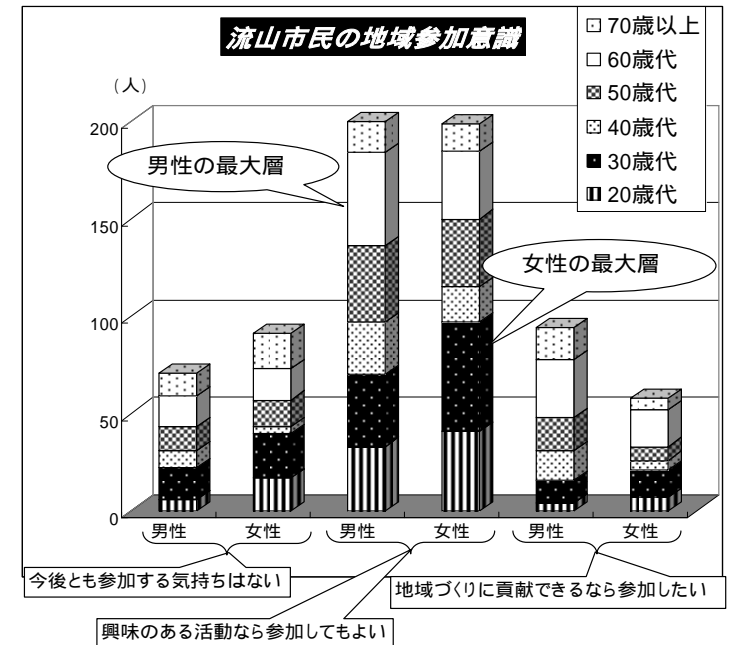


特集 地域づくり

女性30代 男性60代

流山市の調査によると、地域参加意欲が高いのは、30代の女性と60代の男性。年代による偏りが大きい傾向にあります。地域の活性化には、あらゆる年齢層の男女がともにかかわることが理想です。今、家庭でも職場でもない第3の居場所づくりが注目されています。

あなたもぜひ地域づくりに参画してみませんか！



出典：「平成20年7月市民意識調査」

地域力

元気なまちづくり目指して



新聞紙遊び パパも参加して

子育てママも地域デビュー

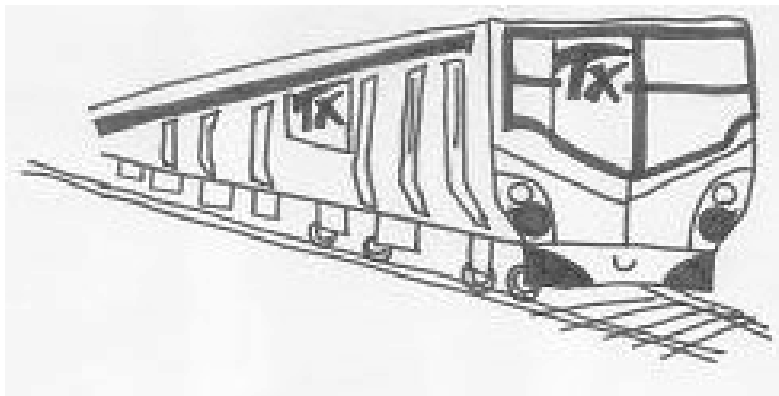
WITH ママ流山 代表 田中由実さん



「WITH ママ流山」は、インターネットの子育て情報サイトです。サイト内で情報交換をする他、年間約30回の親子遊び会を企画するなど、ママと子どもが集まる場を提供してきました。2008年には市の補助金を受けて子育て講座も開催しています。代表の田中さんは現在3歳のお子さんのママです。その子が1歳になった時に活動をスタートされたそうですが、きっかけは何だったのでしょうか？

「赤ちゃんとの生活は毎日が必死でしたが、子どもが1歳になる頃、職場復帰するママ友も増え、社会から取り残される不安感を強烈に感じるようになったのです。その一方で、OL時代は住所でしかなかった流山が子どもを育てる土地へと変化したのを感じ、もっといい環境で子育てをしたいと地域に目を向け始めました。子育てで毎日が勉強中の自分だからこそできることがあるのでは…」と語られています。

流山市は比較的、他の街からの転入者が多く地域とのつながりが薄いように感じます。地域で子どもを育てるということは、例えば道ですれ違う赤ちゃん連れのママに笑顔を向ける、それが第一歩かもしれません。(勝平)



女性議会参加者たちの その後の活動

フィジョアの会 代表 櫻村あい子さん



昨年4月に発足した「フィジョアの会」は、2008年1月30日に流山市が開催した女性議会の一般質問に立った方たちの集まりです。

女性議会は男女共同参画社会の実現に向け、市政への参画や街づくりに女性の視点から提案することを目的に開催されました。半年間の研修を重ね一般質問に立たれた様子は、NHKのニュースで放送され、また各新聞社からの取材も受けました。

「フィジョア」という花は雄株と雌株がそろうことで実をつける素敵な花で、その姿が「男女が協力してお互いの能力を生かす社会づくり」を目指す男女共同参画の主旨に重なるとの思いから会の名称にしたそうです。女性議会終了後も賛同する有志15名が女性の視点からの地域づくりを提案するために月1回の勉強会をしていて、テーマは環境問題、地域安全やアウトソーシングなど多岐にわたっています。

女性議会で議長をされた代表の櫻村さんは36年のガールスカウト千葉県第32団、団委員長や青少年育成会議のご経験から「市民の気づきを行政と共有したい」と考え、行動されています。また、男性優位社会の中で、リーダーシップのとれる女子の育成に注力しており、子どもの頃から各分野に自ら参加して、自分で見て・聞いて調べたりすることが必要であり、将来を担う子どもが大人になった時に、正しく物事を判断できる力をつけられることを願って活動されています。(相楽)



住民・大学・行政 協働でまちづくり

流山まちなみ会 会長 野口允昭さん



「流山まちなみ会」は2004年、流山市都市計画マスタープラン策定市民協議会の有志が南部地区の景観保持や魅力の再発見を目的に発足しました。会員は大学生から中高年まで幅広い男女で構成されていて、当初、定点観測場所設定(現22箇所)、ミニ観光コース設定から始めました。

散策会は千葉大学大学院環境デザイン研究室と一緒に開催し、現在は「ガーデニングクラブ花恋人」や流山市の協力も得て、「歴史と緑とガーデニングのまち散策会」となりました。秋の散策会も実施しています。散策マップの作成は千葉大の女子学生が中心に意欲的に関わってくれて良いものができました。散策会後は写真展を開き、住民への積極的なアピールに繋がっています。毎年シンポジウムも開催しています。

会員も個人の正・賛助・散策会員のほかに団体・団体賛助会員など事業者も入りやすいようにしました。「情報を共有して人との接点を増やし、地域の活性化につなげたい」と熱く語る野口会長の姿に「皆で住みよい街流山にしたい」という思いが伝わってきました。(遠藤)

右写真=オオタカの棲む市野谷の森探索▶



おいでよ！

南流山は文化いっぱい

みんなが元気・まちが元気ネットワーク

代表 武藤伸一さん



「みんなが元気・まちが元気ネットワーク」の武藤伸一さんは、昨年の夏から南流山駅前で「ミュージック・ライブ・イン・流山」を中心になって企画した方です。男性の地域活動者は60代以上が多いなか、子育て真っ最中の比較的若い世代の活動者です。

武藤さんは6年前に柏市から流山市に引っ越し、その時に思ったことは、柏駅前のように路上ライブをしているような場所がないということでした。特に南流山はJRとTXが通っていてかなり多くの人利用する場所であるにもかかわらず、足を止める人はめったにいないと気付きました。人々が集まれる場を作り、何かを表現するところがあればいいのではないかと。そこで同駅の高架下で練習をしていたバンドに声をかけて出演者を集め、自治会の協力を得たり、資金集めの為に地元企業をまわりました。

そうして迎えた昨年夏の第1回目は大雨で大変でしたが、冬の第2回目は市も関わってクリスマスイルミネーションが綺麗に駅前を彩るなか、「クリスマスナイト in 南流山」が盛況に開催されました。武藤さんは今後もこのイベントを定着させ、南流山の文化度を上げたいと考えています。(田中)

